

第2回アセアン・インド地域事務所研究報告会

宿利会長 開会挨拶

(2026年4月22日)

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日は、皆様それぞれにお忙しい中、運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所(AIRO)の第2回目となる研究報告会に、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。

AIROは、2021年4月に、タイ王国バンコクに開設され、本年4月で満5年を迎えました。

現在、米国及びイスラエルとイランの戦争状態とそれに伴うホルムズ海峡の事実上の封鎖状況や、これに起因する物流の停滞、さらには世界経済危機のリスクなど、極めて不安定・不透明な国際情勢が続いています。このような混沌とした中において、ASEAN及びインド地域は、世界経済の成長エンジンとして、また、地政学的にも、日本にとってその重要性は今日（こんにち）ますます高まっています。

AIROではこうした状況を踏まえつつ、ASEAN・インド地域と日本にとって「役に立つ」、「使い物になる」貢献を目指し、現地の政府や研究機関と緊密に連携して、交通・観光分野の研究調査や相手国・地域と日本に共通する課題の解決に向けて取り組んでいます。

では、本日の報告内容について、かいつまんでご紹介します。

最初のテーマは高松研究員による「高速鉄道駅周辺の都市開発」です。

本日の報告では、高速鉄道の建設が進むタイやインドの事例を取り上げ、高速鉄道駅周辺における公共交通指向型開発、いわゆる TOD (Transit Oriented Development) の現状について報告します。

高速鉄道が真に画期的で持続可能な交通手段として機能するためには、単に都市間を高速で結ぶだけでは不十分で、他の交通機関とのシームレスな接続や、沿線及び駅周辺の計画的な整備、利便性の確保が極めて重要です。

駅を単なる通過点に留めず、周辺開発と一体となって地域の活力を生み出すための具体的なアプローチについて、現地の最新状況に基づき報告します。

2つ目のテーマは、岡田研究員と中村研究員による「持続可能な観光」です。

インドネシア、マレーシア、フィリピンの3カ国では、観光地の集中による地域格差や環境負荷などの山積する課題に対し、従来の枠組みを超えた「地域主体」の取り組みが模索されています。

本日は、デジタル技術を駆使して地域の自立を加速させるインドネシア、国家的な品質管理によりホームステイの体験価値を飛躍的に高めたマレーシア、そして公募や表彰制度を通じて地域の観光競争力を引き出し、訪問先の分散を成功させているフィリピンなど、各国の具体的な取り組みを紹介します。

3つ目のテーマは富田主任研究員と高島研究員による「物流の改善」です。

AIRO では、2023 年度後半から、フィリピンやインドネシアを中心とする、いわゆる「海 ASEAN」地域の物流改善を目指して研究調査を行ってきました。

特に「海 ASEAN」の中核であるインドネシアにおいては、物流コストが GDP の約 14%と依然として高く、インフラ整備の遅れや非効率な物流体系などの課題を抱えています。

こうした状況を踏まえ、昨年 9 月にはジャカルタにおいて、インドネシア政府等と一緒に物流シンポジウムを開催し、物流網全体の高度化に向けた議論を深めてきました。

本報告では、現地における調査・議論に基づいた、物流のボトルネック解消に向けた具体的な対応策を提示いたします。

さらに今回は、急速な成長を遂げるインドの事例も参考として取り上げ、同国の物流課題や最新の政策について紹介します。

当研究所では、5 月 8 日にジャカルタにおいて、インドネシア・インフラ地域開発調整府と共催で第 1 回物流 WG を開催するなど、今後も ASEAN 及び南アジア地域の物流網の高度化、そして日本とのサプライチェーンの強靱化に資するよう、より広範な視点から研究調査を継続していく予定です。

4 つ目のテーマは竹下研究員による「道路公共交通」です。

まず、今年度は、ASEAN において交通手段間の統合が先行しているクアラランプール及びジャカルタを対象に調査を行いました。

クアラランプールについては、鉄道とバスの結節性向上や共通運賃制度の導入による利便性確保の先進事例について、ジャカルタについては、従来バラバラに運行されていた小型乗り合いバスを公的運行管理下に取り込み、一つのサービス網として統合する画期的な取り組みについて、両都市の比較を通じ、都市の成長に合わせた公共交通統合の鍵となる制度や運営体制のあり方を提示いたします。

最後のテーマとして、高木研究員から、ASEAN・インド地域において、幹線公共交通として重要な役割を担う「BRT (バス高速輸送システム)」について報告します。特に、世界最大級の

ネットワークを誇るジャカルタの BRT は、都市鉄道、MRT、LRT といった鉄軌道サービスと併存・補完し合いながら、都市の動脈として機能しています。

なぜ日本では本格的な BRT が定着・成功しないのか。ジャカルタのように、都市を支える「広域ネットワークの核」として定義し、システムの耐性を高めてきた成功要因を分析することを通じて、日本の公共交通の今後を考える上で有益な示唆が得られるのではないかと考えております。

以上、本日の発表のポイントをかいつまんでご紹介しましたが、当研究所では、成長著しいインド地域における活動を強化するため、本年秋をめどに「インド事務所」（仮称）を新たに開設する予定です。今後は、既存の AIRO と新設されるインド事務所がよく連携し、ASEAN・インド地域における運輸・観光分野の研究調査と関係国との連携・協働の取組みを、より広域的かつ多層的に展開していきたいと考えています。

最後になりますが、当研究所の活動に対し、日頃より手厚くご支援いただいております日本財団に対し、心から感謝申し上げます。

本日は、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。